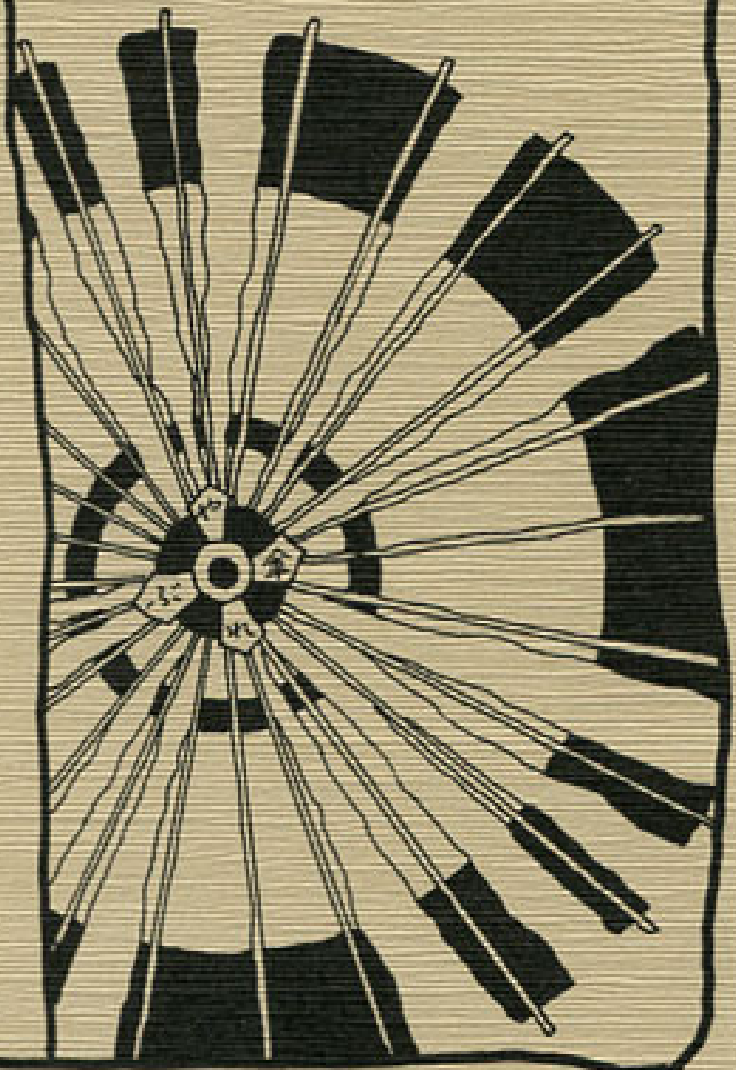
やぶれ傘



六十三号

二〇一二年十二月

通りしな眼鏡を洗ふ秋の昼　根橋宏次
土手上に昼の日差しや草の花　大島英昭
コスモスや野を離れ行く熱気球　廣瀬雅男
雨土の匂ふ案山子でありにけり　きくちきみえ
立ち漕ぎで走る自転車萩の坂　瀬島洒望
指先に極細の棘鴨のこゑ　丑久保勲
日に干せる枕をたたく秋の宿　天野美登里
秋蝶のちろちろ遊ぶ花時計　安藤久美子
溝蕎麦の野原に水路曲がりけり　渡邉孝彦
ガラス戸にぶつかり続け秋の蠅　藤井美晴
山茶花の散り敷く径となりにけり　國保八江
ひとときの葉風聞きゐる秋の山　白石正躬
壁泉の獅子が水吐く蔦紅葉　久世孝雄
誘はれてドナウの月と呑み明かす　松村光典
五箇山の水ほとばしる竹の春　有賀昌手

やぶれ傘句集抄

大崎紀夫選

病床の窓開けてをり十三夜　湯本実
稲穂波そのまま浦のさざ波に　泉一九
旅先の陶器をはじく音さやか　岡田香緒里
威し銃城は空濠のこすのみ　小川滋
祭り笛吹く指先の紅の色　奥田温子
冬瓜や濡れ手でめくる料理本　上林富子
山小屋の梯子垂直星月夜　菊地葉子
首コキと美術館出づ鰯雲　忽那みさ子
薄暗き小屋に売らるる茸かな　小池一司
浮雲の二つ三つ四つ星月夜　佐竹千代
電柱の片側暮るる秋入日　武田紀久
新米を柔らかく炊く良き日かな　時田義勝
幼児のもじもじと「すし」秋の宵　萩原渓人
歯科の椅子倒ざれ窓の秋の空　橋本美代
休診の医者が窓拭く文化の日　濱野新

秋の宿

天野美登里

御供への飯を盛りゐる残暑かな
秋の夜のペンをくるりと回しけり
秋彼岸午後からは供花買ひにゆく
山寺の階段終り萩は実に
大小に煮干し選り分け秋の夜
日に干せる枕をたたく秋の宿
源流は岩にかこまれ胡桃の実
綿飴の割箸太き秋祭
稲架解きの軽トラックの轍かな
炭竈の穴ふさぐ泥乾きけり

秋蝶

安藤久美子

無花果やいつもどほりの朝の来て
梨を剥く皮の螺旋の自づから
秋蝶のちろちろ遊ぶ花時計
焼き立ての尺の秋刀魚の長き皿
古紙よりの甘藷土の香零しけり
長き夜を音立てて注ぐ紅茶かな
登り行くジャングルジムの上に月
小鳥来る神杜と寺の屋根の反り
団栗の十も二十もポケットに
秋の蚊や簡易書留手渡さる

渡邊孝彦

溝蕎麦

秋風に県旗はためく警察署
石敷きの道は墓域へ酔芙蓉
溝蕎麦の野原に水路曲がりけり
山城の跡へ行く道水引草
水引きや権現堂の茅の屋根
萩の風亀が谷辻の地蔵堂
岩窟は寺の物置竹の春
用水の流れに望の月明かり
雲走り晴間広ごる竹の春
渓間に寺の厠や実紫

藤井美晴

秋の蝿

どぶろく（北京）にランタンの灯の映りたる
黄落の谷へと橋を渡りけり
降りそそぐ雨いちぢくは熟したる
埠頭より艫綱を投げ秋うらら
ガラス戸にぶつかり続け秋の蝿
虫喰ひの葉の孔にある秋日影
プラタナス並木に冬の雨の音
もみぢ散る辻のピエロのまばたきて
墓までの坂に日当たる石蕗の花
舟の水脈消ゆるところに鴨の群

山茶花

國保八江

帽子屋に角帽並びつくつくし
秋風と来て禅寺のクラス会
池の面に波紋広がる松手入れ
熊笹を鳴らして風のさはやかに
子犬さがす白粉花の咲く辺り
秋雨のしきりに池の舫ひ船
枝くろぐろと十月桜あはあはと
目で追ひし秋蝶空に消えゆけり
雄を背におんぶ飛蝗の横つ飛び
山茶花の散り敷く径となりにけり

葉風

白石正躬

捨畑の伸びたる草の秋茜
グライダー上りゆく空秋深し
農家へと誘ふ道の彼岸花
衣かつぎ供へしひとつ口に入れ
ひとときの葉風聞きゐる秋の山
雲かかるその上に雲秋の山
畑仕事休むひととき鵙高音
川霧や中州に鳥の羽音して
並べある藁に陽あたる冬隣
逝く秋の毘沙門天の鐘を撞く

蔦紅葉

久世孝雄

旅先で鉢植桔梗買ひにけり

金木犀腹式呼吸繰り返す

秋天を時計回りに伝書鳩

渋滞の車列に釣瓶落としかな

秋夕焼湖上の船の黒々と

綱引きの綱の張力赤とんぼ

甘藷畑の二畝子等に開放す

黄落や風吹き抜ける神楽殿

壁泉の獅子が水吐く蔦紅葉

冬に入るあごをざらりと撫でにけり

松村光典

ドナウ

誘はれてドナウの月と呑み明かす
かもめ睡るドナウの秋の岸辺かな
秋の蚊に古びし手足食はれけり
これかぎりこれを限りと橡拾ふ
歳時記とカフエに座る秋日和
残り火の温もりのことけふの秋
落ち葉掃き虚しきことと知りながら
冬の月スカダルリヤの石畳（スカダルリヤはベオグラードの飲み屋街）
朝霧のミラノの街を抜けにけり（イタリアへ車旅行）
草もみぢ教会の塔数へゆく

竹の春

有賀昌子

みんみんや朝のカフェ・オレぬるくして
語り部のかたへに置かれ氷水
ぼたもちとおはぎ談義や吾亦紅
秋風のくぐり抜け来る四つ目垣
安曇野は蕎麦の花またそばの花
切り岸にひときはあをき野紺菊
ひとひらの紅葉水辺を離れけり
天守閣の上を雲ゆく雁のこゑ
秋の浜にひとひらの貝拾ひけり
五箇山の水ほとばしる竹の春

松本善一

秋霖や名妓寄進の朱塗り門
ぐい飲みの底に蛇の目やぬくめ酒
秋夕焼ボール蹴り蹴り下校の児
風渡る熔岩の原初尾花
新そばや桐の家紋の箸袋
蔵窓は観音開き秋の風
ちらし見て今日は秋刀魚と決めにけり

松本正生

徹夜をどり下駄の鼻緒のゆるぶほど
かなかなや妣の名入りの眼鏡入れ
白芙蓉ふたつ違ひの姉見舞ふ
舟影の見えて隠れて萩の風
小径へと潮風の来る葛の花
蛇笏忌の畑を縁どる曼殊沙華
金木犀太極拳はゆつたりと

◇ 1月～2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保　勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保　勲
	10日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	10日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島　孟
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	25日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	28日(土)	AM9:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
2月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保　勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保　勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島　孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	向島百花園	丑久保　勲
	22日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	25日(土)	AM9:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注)　ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。
2月19日(日)の吟行。集合は10時。東武伊勢崎線・東向島駅改札口(東武浅草駅から各駅停車で二つ目です)。吟行地：向島百花園。句会場：森下文化センター(曳舟駅乗り換えで半蔵門線・清澄白河駅下車)。

◎連絡先　瀬島　孟　☎048-862-2757　藤井美晴　☎0422-55-2733
大島英昭　☎048-592-5041　WEP編集室　☎03-5368-1870
廣瀬雅男　☎048-443-7522　浦和コミセン　☎048-887-6565
丑久保　勲　☎048-853-3856　WEP俳句教室　WEP編集室へ